

訓練 地震発生!

自分で考え、判断して避難せよ!

2021.1.14(木) 予告なしの避難訓練



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第9号 —
2021.1.29

1月14日。長放課の時間を使って、事前予告なしの地震避難訓練を行いました。子どもたちはもちろん、教師にも事前に予告をしていません。

子どもたちは、校舎内に内緒で仕組んだ通行止め箇所にもきちんと対応し、3分24秒で集合、整列を完了することができました。頼もしい姿を見ることができました。(校長)



「夜になると揺れが怖くて怖くて、家の中で寝れなかった。だから隣近所みんなで井戸の周りに小屋を建てて、そこで夜を過ごしとったなあ…」

今年92歳になる母が、三河地震を振り返って、そう語った。

1945年1月13日。三河湾を震源地とする震度7の直下型地震。戦禍にあつて詳しいことは不明のようだが、数千人の死者が出たという。その時にできた深溝断層は、今もその姿を残している。



さて、間もなく訪れる3月11日。あの東日本大震災から10年が経過する。

建物が倒壊し、大津波が町を襲う。そして原発のメルトダウン。まるで地獄絵を見るような映像が、連日テレビに映し出され、死者、行方不明者は2万人を超えた。

そのなかで、釜石にある鶴住居小学校と釜石東中学校にいた子どもたちは、全員無事に避難した。のちに釜石の奇跡と呼ばれるようになった。

そしてそれは1人の女子中学生が発した呼びかけで始まった。

「津波がくっどー。逃げっぺー! 逃げっぺー!」

すると、いつせいに中学生が避難を開始。その様子を見た小学生も続く。中学生は低学年児童の手を引く。これによって570人、全員の命が救われた。

この事実は私たちに貴重なメッセージを残している。それはいざというとき、私たち一人一人が率先避難者になること。指示を待たず、自ら逃げるための一歩を踏み出すことの重要性だ。

地震だけではない。毎年日本列島を襲うゲリラ豪雨。市の防災マップは、常南学区に土石流や急傾斜地崩壊などの危険性を教示している。いざというとき、まさに率先避難が求められる地域なのだ。

改めて、防災に関して何が大切か考えてみる。

私は命を救う率先非難「逃げる!」と、地域の力「仲よく」が、大切だと思っている。「仲よく」とは、いざというときに試される住民同士の普段からのつながりのことだ。

いつ来るかわからない南海トラフ大地震とゲリラ豪雨。隣近所で声を掛け合い、仲よく生活することが、防災の大きな力になる。

小屋を建てることはないが、みんな仲のいい常南学区でいたいと思う。